

# 上海日本人学校の課題

小暮剛一

上海日本人学校運営委員会 委員長

## 1 日本人学校とは

私達の身の回りには、日常生活用品をはじめ世界中から輸入された外国製品・文化があふれている。多くの国々との相互依存関係がますます深まっていくなかで、そこを活躍の場とする多くの日本人がおり、外国で暮らす日本人は124万9,577人に達している(外務省海外在留邦人数統計25年度要約版)。このうち永住者411,859人、長期滞在者は83万7,718人で、帯同家族の内66,960人が義務教育段階の子ども達となっている(平成24年4月現在)。

そしてこれら海外在留邦人家族の小・中の義務教育段階の子女教育を引き受けているのが日本人学校だ。世界中に88校あり2万1,389名ほどが在籍している(2014.1「月刊海外子女教育」)。さらにもう一つある教育施設が補習授業校で(主に土・日を中心に日本語、日本文化などを教えている)2万2,000名ほどの子ども達が在籍している。この日本人学校と補習校に通う生徒の数はほぼ同じだが、国・地域により通学する生徒の数に大きな偏りがあり、特徴的様相を見せている。それは、経済発展著しい中国をはじめとしたアジア地域では日本人学校に通う生徒が非常に多く、逆に欧米諸国では日本人学校に通う生徒は少なく、補習校に通う生徒が圧倒的に多いのだ。理由は、欧米諸国に在住する邦人子弟はインター校か現地校に入学するからだ。

## 2 世界最大規模の上海日本人学校

世界中の日本人学校に通う児童・生徒の80%がアジアに集中している。なかでも中国には約6,500名、その約半数の

3,000名ほどが上海日本人学校虹橋校、浦東校2つ(いずれも約2万㎡)に在籍している。登下校時には両校それぞれ大型バス約30台、マイクロバス約20台が短時間に1,500名ほどの子ども達を送迎するのだが、その様は正に圧巻で、毎日朝夕繰り返されるこの送迎を無事完遂することが保護者、教師の重要な仕事となっている。

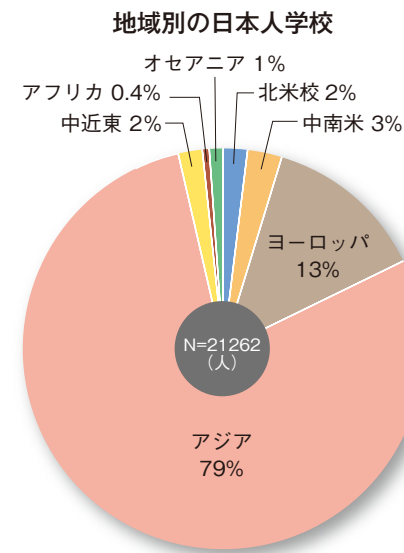
## 3 世界中で唯一の日本人学校高等部

2011年4月日本人学校で初めての高等部が上海に設置され「日本人学校の存在」が社会の注目を浴びることとなった。上海では毎年百数十名の中学部卒業生の高校進学とこれに伴う家族のあり方が大きな問題となっていた。進学のため子どもを帰国させるのではなく、引き続き家族一緒に暮らしながら高校生活を送りたいという在留邦人の強い願い、加えて上海における日本人社会の生活インフラの一層の整備、それに伴う経済活動、企業の投資促進を側面支援することを目指し高等部の開設が実現した。

そして今年の3月、35名の第一期卒業生を送り出すことができた。高等部設置に当たっては、日本の協力大学組織が結成されたことが大きな力となり、卒業実績のない新設校としては想定以上の成果を上げられたのではないかと考えている。

## 4 「日本人学校」に求められている教育、設置の条件と現状

日本人学校は各国の在留邦人の求めに応じて、小・中学生の日本人教育を行うことを目的に設置された経緯から、文部科学省が各学校に校長・教頭(管理職)や教諭を派



出典：海外子女教育振興財団「月刊海外子女教育」2014年1月号

遣するにあたって、現地で学校を運営しようとする邦人社会(日本人会や商工会議所等)に、日本国内の「私立学校法人に倣って」一定の条件・学校設置の基準を満たすことを求めている。しかし上海日本人学校がこの条件を実現するのは容易ではなく、現地の運営委員を含む関係者の認識とは大きくかけ離れているように思える。

上海日本人学校は1975年に生徒数7名で領事館の1室を借り補習校として開校した。当時は親が中国に派遣されている間(2~3年を想定)の教育が期待されていたようで、文字通り「寺子屋」的教育だったと思う。従って、それを担う教師や組織も家族的雰囲気なかで運営されていたと思われる。しかし、今日では世界最大の日本人学校へと成長した上海日本人学校を運営するには「寺子屋の延長的取り組み、考え方」では無理がある。全校生徒3,000名ほどで、このうち在籍期間3年未満の生徒が80%、残り20%が4年間以上の在籍になるが、その数は600名ほどになっている。今や小学部2校、中学部1校、高等部1校という大規模校へと変貌をとげた上海日本人学校だ。寺子屋的運営から大規模校を経営するにふさわしい組織に成長させなければならない。現地に法的根拠を持った組織を形成し、その組織を母体に、複数の学校を経営するための中長期計画、財務計画等を責任持って担う人材集団を形

成する必要がある。そして各学校教育現場と責任ある連携を取りつつ「新しい人材育成を目指した教育組織」創りへと一歩を踏み出す必要があるのではないだろうか。

## 5 上海日本人学校の夢

日本において国際性を育む教育の必要性・国際化教育が叫ばれて久しいが、この国際化教育とは欧米の文化理解を目指す教育であったと思っている。しかし、国際化のための舞台は広がっているのだ。私達は今21世紀初頭の世界第二の経済大国中国の国際都市上海に生活している。長い歴史を共有する分ち難き隣国中国に在籍しているのだから、この環境を生かしたグローバルな国際理解教育を実践する責任があると考える。日々の教育活動を通して自国への認識の深化と共に日本人としての自信と誇りを養成し、アジアから世界に貢献できる人材を育成することこそが、私達が目指す教育であろう。教師であれば一度は行って子ども達を教育したい、と評価されるような学校。ここで過ごした子ども達が、成長し生きるなかで上海での経験、多くの国の人々との出会い、先生や友達との間で交わされた一言一言が、折に触れ思い出されるような、ここでの生活が生き抜くうえで貴重な支えの一端となるような学校創りができたら、と思う今日この頃だ。

### 【上海日本人学校高等部協力大学】

法政大学、上智大学、立教大学、東京理科大学、中央大学、日本体育大学、芝浦工業大学、南山大学、中京大学、関西学院大学、同志社大学

### 【第一期卒業生35名の合格大学】

上智大学4、中央大学2、芝浦工業大学2、日本体育大学1、中京大学3、同志社大学3、関西学院大学5、広島大学1、早稲田大学1、東京女子大学2、学習院大学1、青山学院大学2、明治大学1、獨協大学1、桜美林大学1、帝京大学2、京都外国語大学1、立命館アジア太平洋大学1、共立女子大学1、東京家政大学、その他私立大学・専門学校